丸亀市塩飽本島町笠島（香川県）

令和4年5月1日
丸亀市作成

（1）保存地区の概要

地　区　名　　丸亀市塩飽本島町笠島
種　　別　　港町
面　　積　　約13.1ヘクタール
選定年月日　　昭和60年4月13日
特　　徴

笠島地区は、本島の北東部に位置する小さな港町で、北に天然の良港が開け、三方は丘陵に囲まれている。集落内には狭い通路が網の目のように通り、このうち集落の東寄りを南北に走る東小路と、これに直行して弓なりに通るマッチョ通りに面して、本瓦葺で上階を塗屋とし虫籠窓や格子窓を設け、下階は腰格子付き雨戸構えと出格子・窓格子を組み合わせた表構えを特徴とする町屋形式の建物が立ち並び、歴史的な町並みを形成している。これらの建物には虫籠窓や持ちおくり、格子等随所に塩飽大工の工夫が見受けられる。

〔選定の効果〕

回船業で活躍した塩飽水軍の本拠地であった本島には、かつては他の集落にも立派な家屋が存在したが、現在は維持できなくなり取り壊されるものも多い。しかし笠島地区では、過疎の島でありながら伝統的家屋の維持ができ、観光客にも来ていただけるような景観を保存できている。

位置図

マッチョ通りのまち並み

丸亀市塩飽本島町笠島（香川県）

令和4年5月1日
丸亀市作成

（2）保存地区のあゆみ

昭和50年　過疎化が進行していた笠島地区に、伝統的な様式を残した建造物が多く残っていることが判明
昭和52年　伝統的建造物群保存対策等調査を実施
昭和56年　伝統的建造物群保存対策等の再調査を実施
昭和57年　本島町笠島まち並保存協力会が発足
協力会が事業主体となり修理補助事業を開始
昭和58年　丸亀市伝統的建造物群保存地区保存条例を制定
昭和59年　丸亀市伝統的建造物群保存地区保存対策費補助金交付要綱を制定
丸亀市伝統的建造物群保存地区保存計画策定
昭和60年　国の重要伝統的建造物群保存地区に選定される
保存事業がスタートする
昭和62年　建設省第1回「手づくり郷土賞」に認定される
昭和63年　笠島まち並み保存センターの一般公開を開始
平成2年　文書館の一般公開を開始
平成5年　街なみ環境整備事業を実施
平成6年　ふれあいの館の一般公開を開始
平成12年　笠島まち並保存協力会がNPO法人の認証を受ける
協力会の主催で第1回笠島ふれあい祭りが開催される
平成22年　第10回笠島ふれあい祭り開催
平成25年　瀬戸内国際芸術祭2013開催
平成28年　瀬戸内国際芸術祭2016開催
令和元年　瀬戸内備讃諸島をテーマとした「石の島」のストーリーが日本遺産に認定される
瀬戸内国際芸術祭2019開催

選定前

選定後

選定前

選定後

丸亀市塩飽本島町笠島（香川県）

令和4年5月1日
丸亀市作成

（3）保存地区の保存と整備

主な事業

・文化庁事業　伝統的建造物の保存修理（76件）、非伝統的建造物の修景整備（17件）

令和2年度　修理事業の事例

修理前

修理後

令和3年度　修理事業の事例

修理前

修理後

・旧建設省事業

細街路（1,513㎡）
小公園（3ヶ所）
ごみ集積場（1ヶ所）
などの周辺環境整備

小公園整備の事例

整備前

整備後

ごみ集積場整備の事例

整備後

・その他事業

主要道路の美装化
石積み側溝修復
駐車場整備
公衆トイレの整備
電柱・架線等の移設

通路整備の事例

丸亀市塩飽本島町笠島（香川県）

令和4年5月1日
丸亀市作成

（4）保存地区の活用とまちづくり

地区内の公開施設である「まち並保存センター」には、観光客が訪れ、一定の集客が見込める観光スポットとなっている。

また、平成25年から3年ごとに、島内で現代アートイベント（国際芸術祭）が開催され、地区内で飲食店や展示施設として空き家を利用する事例が増えている。

令和元年には、「悠久の時が流れる石の島」として、せとうち備讃諸島が日本遺産に認定され、その構成文化財の一つである「笠島地区」においても、町屋形式の家が立ち並び、塩飽大工の伝統的な技術を後世に伝えている。

アートイベント

日本遺産(看板)

まち並保存センター入場者数の推移

年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
人数	2,568	1,593	1,409	1,992	481	444

（5）住民等の取組

NPO法人本島町笠島まち並保存協力会の活動内容

①まち並保存センター等の管理

案内所、公開建物3件の管理運営

まち並保存センター

文書館

②宿泊施設の経営

江戸時代に建築された伝統的建造物を利用した民宿を経営

民宿施設(大倉邸)

③各種イベントへの参画・協力

にぎわい創出のため、各種イベントの開催や協力

イベント状況

④地元協力会による修理補助事業

小修理等に要する経費の補助